

大阪 あちこち

●飯盛城跡

飯盛城は生駒山地の北部にある飯盛山に築かれた中世の山城です。正平3年（1348）にこの山の麓で戦われたのが四條畷合戦で、楠木正行（正成の子）の南朝軍と高野師直の北朝軍が激しく戦いました。『太平記』にその様子が描かれそこに飯盛山の名が登場することから、南北朝時代には城が築かれていたようです。本格的な山城として整ったのは戦国時代で、畠山の家臣であった木沢長政が城主となってからとされています。戦乱の中、在地の土豪である安見直政が城主となりますが、河内進出の機会を伺っていた三好長慶がこれを破り、永禄3年（1560）に入城しここを居城と決めました。



「高櫓」郭に建つ楠木正行像

城域は南北約1,200m、東西は約500mに及び、山稜から西へ急峻な尾根が張り出し、北端は交野台地に向かって細く突き出しています。東側は権現川に刻まれた深い谷でさえぎられ、自然の要害に守られた中世屈指の山城です。山稜や尾根を削って造られた、大小70近い「郭（くるわ）」が残っているとされ、314mの三角点がある最高所が「高櫓」郭、現在FMアンテナの建つ広い平坦地が本丸のあった「千畳敷」郭と呼ばれています。また、要所には野面積みの石垣が築かれていました。



「高櫓」郭下の石垣

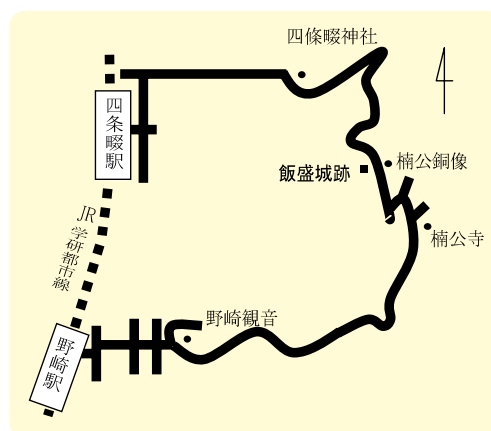


山頂からの眺望（河内平野を望む）

さて長慶ですが、全盛期にはここを拠点に畿内の支配に成功しています。また、彼はキリスト教に寛容で、飯盛城で家臣70余名が洗礼を受けたことがフロイスの「日本史」に記されています。しかしこの城も永禄7年（1564）に彼が亡くなり、三好氏の衰退とともに山城としての役目を終えました。

飯盛山は麓の野崎駅や四條畷駅からでも気軽に登ることができるため、休日ともなると、多くの人を訪れます。とくにお勧めは、山頂付近の桜が満開となる頃です。山頂からの眺望はすぐれ、河内平野はもちろんのこと北摂地域や遠く京都方面まで見渡すことができ、ここに立つと戦国期に重要な役割を果たした城であったことを実感することができます。

※飯盛城跡は、大東市と四條畷市の両方にまたがる地域に位置しています。



飯盛城跡まで

- JR野崎駅から徒歩約1時間10分
- JR四條畷駅から徒歩約1時間

▼お問い合わせ先▼

大東市生涯学習部生涯学習課

TEL 072-870-9105

E-mail gakushu@city.daito.lg.jp